

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330422094	図画工作教育法 Drawing and Handycrafts Department of Education Act	古田 年寿			2	選択	2後期

科目の概要

DP2に記載される、小学校教諭として社会的に自立して生きていくために必須である、免許取得のための教科教育指導に関するスキル・リテラシー・教養等における一般的知識や技能を学修する。さらに、DP3記載に基づく図画工作科指導に必要な専門的知識・技能の習得を目指す。
そのためこの科目では、美術教育の歴史や学習指導要領に示される内容や領域の変遷、学習指導に必要な発達段階に関する知識等、図画工作科教育に必須な諸相を取り上げ講義する。また、図画工作科の題材に多く用いられる材料についての実技を伴う小演習を行う。図画工作科の指導を行うために必要な美術教育に関する知識と技能を習得し、教材研究に係わる能力及び意欲を培い、図画工作科の学習指導案を試作品とともに作成しながら模擬授業を実践できることを目標とする。

学修内容	到達目標
① 図画工作科の今日的課題や動向を理解する。 ② 美術教育と図画工作科教育の歴史と理念を理解する。 ③ 子どもを取り巻く諸問題と造形活動；美術・芸術・アートの動向について理解する。 ④ 図画工作科の学習指導要領の変遷（昭和）について理解する。 ⑤ 図画工作科の構造や領域について理解し、学習指導要領にそった学習指導案を作成する。	① 美術に係る教科・科目の構成と内容、及び、今日的課題を理解することができる。 ② 美術教育と図画工作科教育の歴史と理念を理解することができる。 ③ 子どもを取り巻く社会背景と造形活動、現代の社会的課題を解決する現代アートの動向について理解できる。 ④ 図画工作科の構造や領域について理解し、学習指導要領にそった学習指導案と試作品を作成できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	文献資料を使い学修し、内容や構成を考え、レポート等を作成することができる。
	働きかけ力	学修内容に興味関心を持って取り組むことができる。
	実行力	指定された内容や様式に従いながら的確に学ぶことについて積極的に取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	主観にとらわれず事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。
	計画力	レポート作成や指導案作成等で、見通しを持って最後まで粘り強く取り組むことができる。
	創造力	既存の様式や形態等に捉われず、現代の子どもに必要な資質・能力について思いを巡らし、自分なりの価値観を持ち試作品等を制作することができる。
チームで働く力	発信力	得た知見を的確な文章で表現し、また、傾聴者を考えて、わかりやすい発表をすることができる。
	傾聴力	教員の講義や他者の発表を正確に聞き取り、質問等を交えながら整理することができる。
	柔軟性	制作等で協働的なアクティブラーニングを行う際、チームでの話し合い等に積極的に参加し、チーム全体に貢献できる。
	状況把握力	共同制作等での場の雰囲気等をくみ取り、適切な発言や行動をし、また目標に向かって協力することができる。
	規律性	無断欠席、遅刻、私語など講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
ストレスコントロール力	チームにおける課題等に対して全体で共有して解決することで、ストレスコントロール力を身につけることができる。	

テキスト及び参考文献

教科書：文部科学省、『小学校学習指導要領解説編 図画工作（平成29年度告示）』
 参考書：山口喜雄、佐藤昌彦、奥村高明著、『小学校図画工作科教育法』 建帛社
 その他、授業内で適宜紹介する。

他科目との関連、資格との関連

他教科との関連：「図画工作研究A」を踏まえた本科目「図画工作教育法」は、「図画工作研究B」の基礎となる科目である。

資格との関連：小学校教諭第1種普通免許状

学修上の助言	受講生とのルール
図画工作科の授業を考えるにあたり、まずその歴史を知って美術教育の本質を学びましょう。次に、自分自身の手を動かして、試行錯誤を繰り返しながら、自分の思いを表現する楽しさを体感してほしいと思います。図画工作科の学びを通して、子どもたちとともに楽しく豊かな生活を創造する表現・鑑賞活動を、探求していきましょう。また、返却された作品やレポートは廃棄することなく、画像やファイルにまとめて保管し、今後活用してください。	系統立てて行う内容がありますので、やむを得ず授業を欠席する場合は連絡をお願いします。実技を伴う学習内容においては、事前に必要な材料や道具をお知らせします。しっかり準備をして忘れ物をすることなく授業に臨んでください。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
		レポート		40	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		50	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
レポート、作品等をすべて提出し、これらの完成度が高く、また試作品を含む指導案の発表内容が秀逸であり、出席状況が良いことがA（優）評価の条件となる。	レポート、作品、指導案、試作品等が提出されており、これらが不足なく水準を超えて完成されていて、出席状況が良好なものがB（良）評価となる。 レポート、作品、指導案、試作品等が提出されており、これらが不足なく完成されていて、出席状況が良好なものがC（可）評価となる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	<オリエンテーション> 授業の目的や授業内容、レポート、評価等について知り、学習の見通しを持つ。	ワークシートのフィードバック	この科目の目的、内容や評価等について理解することができ、今後の学習への意欲をもつことができる。	(予習) 心に残っている図画工作科の授業や作品を想起する。 (復習) ワークシートの作成(次週に提出)。	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
2	<社会背景とともに変遷を遂げた美術教育における学習指導内容と方法> ・「臨画」の体験(鉛筆画教育)(毛筆画教育)	講義 演習 レポートのフィードバック	美術教育の世界的な流れと、日本における教科名の変遷やその歴史的背景について理解し、「臨画」を体験してレポートを提出することができる。	(予習) 美術教育の歴史について、関心を持つ。 (復習) 社会背景の変化に伴った美術教育の変遷に関するワークシートを作成できる(次週に提出)。	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
3	図画工作科の目標である「造形的な視点」の育成について、印象派、近代、現代アートをもとに考え、現代の社会的課題を表現する作品を制作する。	講義 演習 レポートのフィードバック	「造形的な視点」の育成について考え、現代の社会的課題を表現する作品制作に意欲的に取り組むことが出来る	(予習) 社会背景の変化に伴った芸術の表現内容の変遷について関心を持つ。 (復習) 作品の仕上げ(次週に提出)。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
4	<指導案の理解と作成方法> ・指導案の作成方法について学修する。	講義	指導案の作成方法について理解できる。	(予習) テキスト、参考書を読んでおく。 (復習) 今日学修したことを振り返り、次回からの授業に向けて準備をする。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
5	<指導案の作成>① 学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、学習内容を構成する表現領域より「造形遊び」に関する低・中・高学年の各目標を理解し、児童作品を鑑賞する。これらを基に指導案を作成する。	講義 演習 グループワーク ワークシートのフィードバック	学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、「造形遊び」に対し、児童作品より低・中・高学年の目標が理解できた上で、指導案が作成されている。 (ワークシートの提出)	(予習) 学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、学習内容を構成する表現領域より「造形遊び」に関する低・中・高学年の各目標に関心を持つ。 (復習) ワークシートの作成(次週に提出)。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
6	<指導案の作成>② 学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、学習内容を構成する表現領域より「絵に表す活動」に関する低・中・高学年の各目標を理解し、児童作品を鑑賞する。これらを基に指導案を作成する。	講義 講義 演習 グループワーク ワークシートのフィードバック	学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、「絵に表す活動」に対し、児童作品より低・中・高学年の目標が理解できた上で指導案が作成されている。 (ワークシートの提出)	(予習) 学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」より、「造形遊び」に対する低・中・高学年の目標に関心を持つ。 (復習) 試作品、ワークシートの作成(次週に提出)。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
7	<指導案の作成>②-2 試作品制作	試作品制作 グループワーク	学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、「絵に表す活動」に対し、児童作品より低・中・高学年の目標が理解できた上で試作品が制作されている。 (作品提出)	(予習) 学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」より、「絵に表す活動」に対する低・中・高学年の目標に関心を持つ。 (復習) 試作品を完成させる。(次週に提出)。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
8	<指導案の作成>③ 学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、学習内容を構成する表現領域より「工作に表す活動」「立体に表す活動」に関する低・中・高学年の各目標を理解し、児童作品を鑑賞する。これらを基に指導案を作成する。	講義 演習 グループワーク ワークシートのフィードバック	学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、「工作に表す活動」「立体に表す活動」に対し、児童作品より低・中・高学年の目標が理解できた上で指導案が作成されている。 (ワークシートの提出)	(予習) 学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」より、「工作に表す活動」「立体に表す活動」に対する低・中・高学年の目標に関心を持つ。 (復習) ワークシートの作成(次週に提出)。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	<指導案の作成>③ー2 試作品制作	演習 グループワーク	学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、「工作に表す活動」「立体に表す活動」に対し、児童作品より低・中・高学年の目標が理解できた上で試作品が制作されている。(作品提出)	(予習)学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」より、「工作に表す活動」「立体に表す活動」に対する低・中・高学年の目標に関心を持つ。(復習)試作品を完成させる。(次週に提出)。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
10	<指導案の作成>④ 学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、学習内容を構成する鑑賞領域より「鑑賞活動」に関する低・中・高学年の各目標を理解し、児童作品を鑑賞する	演習 グループワーク ワークシートのフィードバック	学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、「鑑賞活動」に対し、児童作品より低・中・高学年の目標が理解できた上で指導案が作成されている。	(予習)学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、学習内容を構成する鑑賞領域より「鑑賞活動」に関する低・中・高学年の各目標について関心を持つ。(復習)ワークシートを作成する。(次週に提出)	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
11	<指導案の作成>④ー2 試作品制作	グループワーク ワークシートのフィードバック	学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、「鑑賞活動」に対し、児童作品より低・中・高学年の目標が理解できた上で試作品が作成されている。(作品提出)	(予習)学習指導要領(小学校図画工作科)の「各学年の目標及び内容の系統表」を用いて、学習内容を構成する鑑賞領域より「鑑賞活動」に関する低・中・高学年の各目標について関心を持つ。(復習)試作品を完成させる。(次週に提出)	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
12	<模擬授業にむけて> 模擬授業の組み立て、 使用教材等の確認。	グループワーク	模擬授業の組み立て、 使用教材の確認ができる。	(予習)指導案の修正箇所がないか確認しておく。(復習)使用教材等の確認をする。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
13	<模擬授業の実践(低学年向け)>	演習 グループワーク ディスカッション 振り返りレポートの フィードバック	作成した指導案に基づく実践を行うことができる。(振り返りレポートの提出)	(予習)模擬授業のタイムテーブルに沿ってシミュレーションをする。使用教材等の確認をする。(復習)振り返りレポートを作成する。(次週に提出)	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
14	<模擬授業の実践(中学年向け)>	演習 グループワーク ディスカッション 振り返りレポートの フィードバック	作成した指導案に基づく実践を行うことができる。(振り返りレポートの提出)	(予習)模擬授業のタイムテーブルに沿ってシミュレーションをする。使用教材等の確認をする。(復習)振り返りレポートを作成する。(次週に提出)(次週に提出)	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	<模擬授業の実践(高学年向け)>	演習 グループワーク ディスカッション 振り返りレポートの フィードバック	作成した指導案に基づく実践を行うことができる。(振り返りレポートの提出)	(予習)模擬授業のタイムテーブルに沿ってシミュレーションをする。使用教材等の確認をする。(復習)振り返りレポートを作成する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力